

---

---

## 予防を深め広げる源に

北原 稔 (神奈川県藤沢保健福祉事務所 保健福祉課長)

---

保健医療の専門職として、「一体あなたの専門は何ですか？」と問われたならば、今の私は「地域保健や地域福祉における『予防』です」と答えています。歯科医師としての出発点はもともと「予防歯科」であり「地域歯科保健」ですが、現在は、出先行政の経由事務の処理役として、「虐待予防」や「介護予防」に熱を入れているところです。虐待や要介護の発生等を、社会的文脈の中でとらえて介入的アプローチを組み立てる現場の勤務は、歯科疾患予防の地域実践と妙に共通し、社会的使命を感じるからに他なりません。

こうして、この『予防』、少し広げて「ヘルスケア」という分野を振り返ってみますと、ほんとうは「ヘルスサイエンス」としての高度な専門性を内在し、全てに優先して欲しい分野です。けれども、今日のような厳しい行財政の現実や、素人を主役から阻害する医療の体質、そしてお節介を嫌う個人の権利の前では、ややもすると予防やヘルスケアは小さくしぼみがちです。かけ声だけで実態のないリップサービスだったり、“稚拙な夢追い人”では残念な限りです。

行政においては、根拠や効果に胸を張って予算

計上できる予防事業を実施したいものです。歯科臨床においても、患者の不幸を未然に防ぐことが経営上の採算に期待できる仕組みづくりが夢だと思っています。予防こそが、無駄な資源も浪費せず、患者にも地球にもやさしい、最高の医療行為なのだと思えるからです。

一方では、予防活動とはそのような、低次元な採算性の枠に入れるのはけしからん。ボランティア精神からヒューマニク文化としての予防の風土を との議論もありましょう。

さらに、これからの予防やヘルスケアは、自然科学的な理論とともに、文学や心理学・社会学などの社会科学的な視点や論理が必要となる学際的な分野だと思われます。ヘルスサイエンスには、より広い学問的な立場から体系的に整理し直す使命が増してきます。

何れにしても、大きく広く理想郷的な分野ゆえ、『志』こそが「我らの宝」と思います。本誌が発信源となり、このような『志』ある多くの皆様と共に、この「予防」や「ヘルスケア」にこだわって欲しい。21世紀の新たな予防活動を深め、広げて欲しいというのが、今の私の切なる願いです。